

今回の個別フォローは、先日自主練習会の投稿をした件について話を聞いてもらった。投稿して良かったし、みんなが単なる共感ではなく、本音を返してくれたことも嬉しかった。ただ、みんなのコメントにどう返すかが非常に難しかった。「質問したい人がすればいい」というのはまさにその通りで、私もコメントを読みながら、「そうだよな」と頷いてしまった。ただ、それだと押し付けにはならない。成長したい人が行動して、その分成長を得られるのは当然で、私もその通りだと思う。それでも、伝えたいと思ったからあの投稿に至った訳だが、それ以上何をどう伝えればいいのか、「押し付け」の難しさを改めて感じた出来事だった。

「どこに着地したかったの？」と、陽子さんにじっくり質問を重ねてもらい、投稿した時には自分でもわかっていなかった違和感の正体を紐解いてもらった。

無料のイベントだし、目的意識が違うのは当たり前だ。陽子さんの質問に一つずつ答えて行く中で、手上げ制なのかどうなのかが問題なのではなく、それが共有された状態なのかどうかわからなかったことが違和感の正体だったのだと気が付いた。

なので、コメントでみんなの考えが聞けて納得できた。

最初に投稿した時は、「質問した方がいい」と思っているという考えを伝えること、違和感を伝えることが1番の目的だと思っていたけど、**もっと自分の本音が明確だったら、コメントを返すのに迷わなかったんだろうと思う。**

「どう返せば良かった？」の答えは、違和感の原因を伝えることだったんだなあ。

結果として、チームItoのメンバーの力を借りて、「全員が理解している状態を目指す」というゴールに辿り着くことができた。

できない理由を話すことで前に進めるというのは、先日のチームItoのmtgでアドバイスをもらった「とは言え・・・」に通ずるものがあるなと後から振り返って思った。

陽子さんからは、個別フォローで、「質問することをルール化して解決しようとしなかったのは、みんなの成長だと思う」とフィードバックをもらった。

ルール化する方向に舵を切るのが、1番手っ取り早くて、今までの私たちには簡単な解決法だったと思う。でも、それをしてたら、「全員が理解している状態を目指す」という共通認識は持てなかったと思う。そして、根本的な解決にはなっていないから、数ヶ月後にまた同じ状態になって、その時は、「あの時合意したはずなのに・・・」と、さらに大きな違和感になっていただろう。

今までの人間関係でやってこなかったプロセスを経験できたことが、個別フォローで振り返って実感できた。

陽子さんは、私が個別フォローでこの話をする前に、投稿を読んだ時点で私の違和感の正体が伝わっていたと言うのだから、舌を巻いてしまった。

最近は、自分がコーチだったら、私みたいなクライアントの話
をどうやって聞くか？という目線で個別フォローを振り返った
りする。今回の陽子さんのコーチは、予想外の視点の変更
や、思い切った踏み込みがあった訳ではなく、起きた事象に
スポットを当てて、私の気持ちはどうだったのかをじっくり聞
いてくれた。コーチングの正攻法とも言えるかもしれない。

一つの事象を深掘りし過ぎて墓穴を掘るという失敗を、コー
チ役で何度か経験したことがあるが、それしか見えていない
から失敗する訳で、視野を広く持っていれば、どちらにする
かを選べる。クライアントの気持ちを徹底的に聞くことで、本
音が引き出されるというのを、身を持って体験した。

今回もありがとうございました！！